

学番	6 2	柏崎常盤高等学校
----	-----	----------

令和 6 年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画				
学 校 運 営 方 針		(1) 主体的に学ぶ姿勢を養うとともに、確かな学力を定着させる (2) 豊かな人間性を育み、共感や連帯を共有できる人間力を養う (3) 元気のでる、さわやかな学校づくりに取り組む		
三つの方針(スクール・ポリシー)				
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)		① 全日制普通科の高等学校として、生徒一人ひとりの多様な進路に対応するために、知・徳・体のバランスのとれた総合的な力をつける教育活動を展開します。 ② 協働的な学びを進めるために、I C Tを効果的に活用したグループ学習や課題探究活動、プレゼンテーション活動などを、「総合的な探究の時間」を始めとした各教科の学習に取り入れます。 ③ 地元の行政機関や大学、企業等と連携して、地域を知り、地域に貢献し、さらに全国的、世界的な視野をもてるような活動を教科等横断的に行います。 ④ 生徒の主体的な活動を支援し、多様な人や考え方と接する機会をつくるために、生徒会活動や学校行事等を充実させます。		
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)		① 全日制普通科の高等学校として、生徒一人ひとりの多様な進路に対応するために、知・徳・体のバランスのとれた総合的な力をつける教育活動を展開します。 ② 協働的な学びを進めるために、I C Tを効果的に活用したグループ学習や課題探究活動、プレゼンテーション活動などを、「総合的な探究の時間」を始めとした各教科の学習に取り入れます。 ③ 地元の行政機関や大学、企業等と連携して、地域を知り、地域に貢献し、さらに全国的、世界的な視野をもてるような活動を教科等横断的に行います。 ④ 生徒の主体的な活動を支援し、多様な人や考え方と接する機会をつくるために、生徒会活動や学校行事等を充実させます。		
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)		① 一人ひとりの価値観を大切にし、優しく思いやりのある生徒 ② 知的好奇心と創造的資質を高め、主体的に学びつづける生徒 ③ 地域の持続的発展に寄与し、社会に貢献する意欲のある生徒		
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標	
①生徒の自己実現と希望進路の達成に向け、組織的、体系的な体制づくりの推進。 ②より広範囲な外部との連携に取り組み、生徒の対話能力の育成に努めたい。 ③部活動や学校行事の在り方については継続して見直し、検討、削減していく。		○ I C T機器を用いた「主体的・対話的で深い学び」を深化する。	(1) 進路希望の確立に向けて基礎学力の向上 ・家庭学習の習慣化と大学入学共通テストに向けた対策の充実	
		○学校行事をとおして対話能力を育成し進路希望を達成する。	(2) 自己表現力の向上を目指すキャリア教育への取り組み ・総合的な探究の時間、L H Rの計画的活用生徒会活動の充実	
		○いじめのない学校づくりを推進する。基本的な生活習慣を確立し生徒の活動を支える。	(3) 豊かな人間性の育成に向けて地域との連携 ・授業公開や学校行事で開かれた学校づくり ・ P T A活動や地域、地域の中学校や大学等との連携	
		○勤務時間の適正な管理や業務を見直し時間外勤務の削減に取り組む。	(4) 学校閉庁日の設定や学校行事や部活動の活動時間の精選、諸会議の時短・削減等に取り組む。	
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
学習指導	始業前10分間の充実	・朝読書を通じて、本に親しみ、読解力の育成と集中力を身に付けさせるとともに、定刻前着席や落ち着いた学習態勢を作り出す。		A
		・読書の他に、小テストなどを行い、基礎学力の定着に活用する時間としても利用する。		A
	効果的な年間計画	・年間の行事や授業を効果的に組み込み、効率よく学習を行えるような計画を立て、見直し修正を行っていく。		A
	中高間の連携	・ I C T活用推進委員会、I C T推進委員で連携をとり、研修の実施を通して効果的な活用方法を学ぶ。		B

進路指導	可能性を広げるための、基礎学力及び自己表現力の向上	・授業、朝読書を通して、様々な分野に関心を広げる。	A	A	A
		・進路ガイダンス及び進路講演会、1年生全員参加の新潟大学オープンキャンパスなどの進路行事を計画実施する。	A		
	進路の方向性を深める	・進路ガイダンス及び進路講演会、1年生全員参加の新潟大学オープンキャンパスなどの進路行事を計画実施する。	A	A	
		・オープンキャンパス、企業見学、看護・医療・福祉体験など各種体験の主體的な参加を促す。	A		
		・個別面談およびLHRなどでの進路調べ学習や進路適性検査を適宜実施する。	A		
	希望進路達成に向けて保護者との連携及び補充的学習	・進路の手引きや学年便りの発行、保護者説明会を通して情報提供を行う。	B	B	
		・保護者面談や三者面談などを活用して、保護者の考えと生徒の考えの相違について理解を深める。	A		
		・放課後補習、個々の適性・希望に応じた個別学習指導の充実を図る。	B		
	生活指導	家庭・地域との連携を深める	・保護者との連絡を密にして、欠席や遅刻、早退等の連絡を徹底する。また生徒の状況を常に家庭と共有し、連携して指導する体制を作る。	A	
・柏崎地区生徒指導連絡協議会に参加し情報交換を行う。			A		
・学校評議員会や地域の声を聞く会等で広く意見や情報をいただき指導に活かす。			A		
基本的生活習慣の確立を図る		・問題行動の防止に向けた取組を組織的かつ継続的に実施する。	A	A	
		・学期毎の頭髪服装検査に加え、全職員で身だしなみの指導を行う。	A		
		・職員から積極的に挨拶を行い、自ら挨拶できる生徒を育てる。	B		
交通マナーやルールを遵守し、交通安全意識の高揚を図り、交通事故ゼロを目指す		・登校時の立哨指導や駐輪指導、全校集会等を通して交通安全意識を高める。	A	A	
		・適宜交通安全に関するポスターやチラシを配付・利用して交通ルールやマナーの遵守を呼びかける。	A		
生徒会		生徒会活動の活性化	・活発な生徒会行事を展開する。	A	A
	・生徒会行事の企画・立案・運営にて全校生徒の参画を高める。		A		
	・他校との交流・情報交換を深める。		B		
	部活動の活性化	・積極的な加入をすすめ、部活動加入率の向上を図る。	A	A	
		・日常活動や大会等への積極的な参加を促し、活動の活性化を図る。	A		
開かれた学校づくり	家庭・地域との連携の充実を図る	・「地域の声を聞く会」等での意見を汲み取れる態勢づくり。	A	A	A
		・様々な場面でのPTAと連携した活動の充実化。	A		
		・学級便りやメール配信システムなどを利用した、家庭と学校の連携強化。	A		
	本校情報の広報活動の充実を図る	・ホームページの一層の充実化。	A	A	
		・中学校との連携を見すえた授業公開の拡充。	A		
		・より一層の学校行事等の地域への広報。	A		
成果	・いじめ対策として、生徒会がいじめ防止標語を募集と美術部がポスターを作成し未然防止を呼びかけた。 ・地域と連携したビーチ・クリーン活動を行い、生徒と保護者、職員が共に地元の海の保全に努めた。 ・ロイロノート等を用いたICTを活用し、学習活動等を行うことで、生徒の意欲的な学びに繋げた。 ・noteを活用し、本校の魅力を積極的、効果的に広報することに努めた。		総合評価 A		

学番	62	柏崎常盤高等学校
----	----	----------

令和6年度

学校関係者評価（報告）

学校関係者からの評価・意見等※

【地域のとの連携】

- ・今後も、地域の大学との交流や地域企業等との連携の機会を積極的に増やし、総合型、推薦型での受験に活かしてほしい。
- ・青少年育成アンケートの協力を感謝する。保護者の回答は少なかったが生徒は多くの回答をしてくれた。子どものスマートフォンの使用時間が長い結果となっていた。
- ・同窓会と生徒のよりよい関わりや協力体制を考えていきたい。例えば、同窓会から学校に社会人材を派遣するなど。
- ・食物部の生徒が、子ども食堂に協力してくれている。今後も継続してほしい。

【生徒の様子】

- ・授業参観の様子を見ると生徒は落ち着いて学習に取り組んでいる。
- ・タブレットの使用について、生徒はなれている様子だった。
- ・バドミントン部の1，2年生それぞれ1人が比角小学校で行っているバドミントンの活動に参加している。先日の北信越大会の際は、顧問の佐藤先生をはじめ生徒の皆さんからの運営協力の姿を見て素晴らしいとおもった。感謝している。
- ・少年指導等は、深夜徘徊が多いが、常盤高校の生徒は見かけない。
- ・管内の状況を確認したところ、常盤高校生は良いと聞いている。
- ・現在は、（一般的に）横のつながりが希薄になっているようだ。
- ・大学に在籍する卒業生に自己肯定感が低い生徒が見られる。自信を持って活躍してほしい。そのような生徒を育ててほしい。

【その他】

- ・電子黒板やタブレットを使用している授業が意外と少なかった。
- ・清掃が行き届いている。
- ・（一般的に高校生は、）図書室の利用が少ない、多くの本に触れてもらいたい。
- ・授業で、生徒が表現をする場面が少ない。

※「自己評価の結果の内容が適切かどうか」

「自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。」

「学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか。」

「学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか」などを評価する。

学番	6 2	柏崎常盤高等学校
----	-----	----------

令和 6 年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施報告	
重点目標	学校関係者評価を踏まえた次年度の主な課題と改善策
学習指導	・互見授業を取り入れ教員がお互いの授業を見学した。ロイロノートを利用した授業も多く行われるようになった。今年度も継続利用するロイロノートを用いて、I C T機器を用い個別最適な学びに取り組み、「主体的・対話的で深い学び」の深化につなげたい。
進路指導	・進路情報を早期に発信し、生徒と保護者が適切な情報を得られるように努め、より一層きめ細やかな進路指導を実践していく。 ・「総合的な探究の時間」と結びつけて自己の進路を考え、アントレプレナーシップ、インターンシップや看護医療体験等様々な経験を経て進路決定していくように指導する。
生徒指導	・わかる授業を展開し、自己肯定感を醸成すると共に発達支持的生徒指導に努める。連続して欠席した生徒に対して、早めの声かけや保護者、外部機関との連携を図り、生徒の学びを支えていく。 ・日頃から生徒とのコミュニケーションを大切にし、小さな変化を見過ごさないようにするとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期解決のために組織として指導する体制づくりを一層強化する。
生徒会	・体育祭、文化祭、球技大会等の学校行事を行った。引き続き、保護者や地域の方々にも行事を公開していく。 ・部活動や学校行事の在り方については継続して見直し、検討、削減していく。
開かれた学校づくり	・ホームページやnoteで教育活動を積極的に紹介し、広報に努めた。 ・地域に開かれた学校づくりのため、保護者や地域の方々への授業や、学校行事等ボランティアを募り、教育活動を継続する必要がある。